平成 30 年度　優秀論文表彰式

2019 年 3 月 26 日、卒業式終了後に、レストラン「スクエア」で経済学部卒業記念パーティ（後援：経和会・埼玉大学経済学会）が開催され、会場で優秀論文 3 本と最優秀論文の表彰が行われ、賞状と副賞が授与されました。

左より、経和会出口副会長、國府田さん、小林さん、牛窪さん、立澤さん、柳澤経済学部長

最優秀論文
牛窪早紀（金井ゼミ）
「家事支援サービス業から見た女性の「雇われる働き方」「雇われない働き方」」
本論文は、「柔軟な働き方」を選択する非正規雇用の女性を対象として、「雇われる働き方」と「雇われない働き方」の相違を考察したものです。家事支援サービス業における担当者、ハウスキーパーにインタビュー調査を行い、2 つの働き方の相違を丁寧に分析し、理論的特徴とは異なり「報酬の労務対償性」があり得ることを明らかにし、個人請負であるにもかかわらず労務交渉ができない背景に日本の労働市場における女性の立場の弱さがあることを考察した点が高く評価されました。

優秀論文

國府田彩（内田ゼミ）

「コミュニティ・マルシェは地域活性化に寄与するか：鳩山ニュータウンを事例として」

本論文は、高齢化の進む埼玉県比企郡鳩山町に整備された公共施設「鳩山コミュニティ・マルシェ」が地域活性化を促進してきたとする仮説を、現地調査や文献調査から明らかにしたものです。マルシェの構想が具現化するプロセスや、マルシェの多面的な空間機能や役割について、地元広報誌やインタビューを交えて整理している点、特に、イベント来場者に実施したアンケート調査の自由回答の記載内容を記載者の意図まで探りながら分析した点が高く評価されました。

小林亨（川又ゼミ）

「司法による生存権の実効的な救済の方法の検討」

本論文は貧困問題の解決方法として、憲法 25 条の生存権の活用により、裁判における救済を可能とする方法を検討したものです。具体的権利を裁判で実現するためには、「過去に対する請求」と「将来に対する請求」を区別し、それぞれの裁判手続を分けることを主張し、さらに立法不作為行為を裁判で争う可能性にも言及した論稿です。従来の学説、判例を踏まえつつ、新たな解釈を試みることで、現代的な論点をあぶり出した論稿で、難しい課題に果敢に挑戦し、明確な結論を的確に提示していることが高く評価されました。

立澤直也（遠藤ゼミ、副指導：Timothy Bolt）

"Expansion of Informal Economy in Tanzania and its Internal Stratification"

本論文は、タンザニアの都市部におけるインフォーマル経済の急拡大の実態と要因を明らかにしたものです。フォーマル・セクターに働き口がないという環境的要因だけでなく、積極的にインフォーマル・セクターに流入する人が多いことを、国家統計局による統計データに加えて、タンザニアへの渡航経験や現地とのつながりを有する強みを発揮して考察し、インフォーマル・セクター内部の階層化を明らかにしたことや、明確な問題意識にもとづいた多くの示唆に富む論文であることが評価されました。